

NARO RESEARCH PRIZE SPECIAL Ⅲ

難裂莢性ダイズ品種群の育成とSOPを活用した普及推進

難裂莢性ダイズ品種群育成と普及推進グループ

高橋 浩司¹⁾、南條 洋平¹⁾、猿田 正恭¹⁾、山田 哲也²⁾、高橋 幹¹⁾、羽鹿 牧太³⁾

(¹作物研究部門、²本部、³東北農業研究センター)

研究の目的・背景等

国産ダイズは刈り遅れの際の自然脱粒や収穫ロスが多く、低収要因の一つとなっている。そこで、これらを低減するために、難裂莢性（莢（さや）をはじけにくくする特性、図1）を導入した品種の育成と速やかな普及が求められている。

研究の概要

難裂莢性ダイズ品種群「サチユタカA1号、フクユタカA1号、えんれいのそら、ことゆたかA1号」を育成するとともに、同品種群の標準作業手順書(SOP)やパンフレット「大豆の品種あらかると」の作成（図2）、「大豆研究最前線」シンポジウム開催、現地実証圃・展示圃設置、実需者の加工適性評価等を実施して生産者・実需者への認知度向上を図った。

社会実装の状況

数年間で4品種合計1万haに迫るまで普及が拡大した（図3, 図4）。今後1万haを超える普及が期待される。



難裂莢性

易裂莢性

図1 難裂莢性品種の評価

乾燥機で加熱・乾燥しても難裂莢性の品種は（左）ほとんどはじけない。



図2 パンフレットの表紙

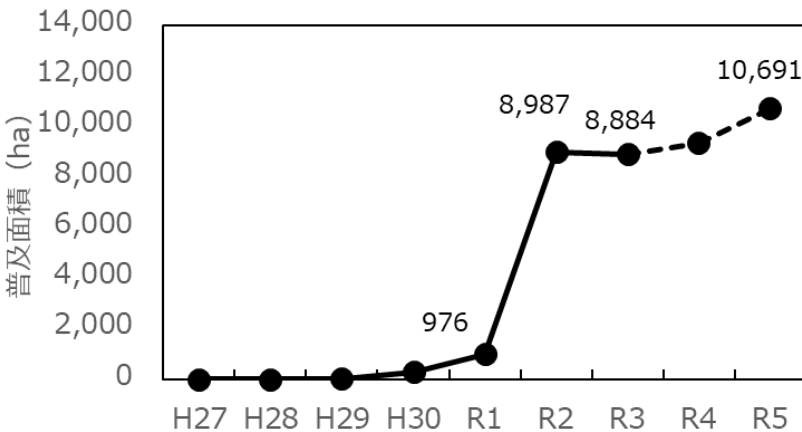


図3 難裂莢性品種群の普及面積の推移
R3は暫定値、R4以降は見込みの数字である。

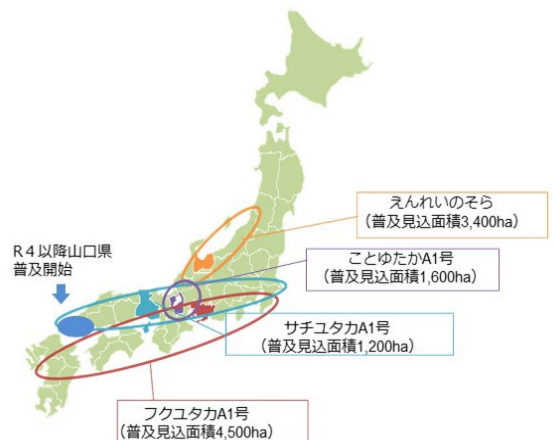


図4 難裂莢性品種群の採用県と適応地域